



今こそグローバルな信頼と団結を

先日、高校時代の友人の医師がとても参考になるメールを送ってくれました。

それは：

「著作累計が 2,000 万部を突破した世界的歴史学者・哲学者のユヴァル・ノア・ハラリ氏は、2020 年 3 月 15 日付アメリカ TIME 誌に「人類はコロナウイルスといかに闘うべきか——今こそグローバルな信頼と団結を（原題：In the Battle Against Coronavirus, Humanity Lacks Leadership）」と題した記事を寄稿した」との情報です。

なぜここで紹介するかというと、著者の主張する内容が、私が所属するSGI（創価学会インタナショナル）が目指しているものと共通しているところが多いからです。断片的な引用ですが：（翻訳は柴田裕之氏。こちらで一部要約したところもあります）

現在の新型コロナウイルス感染症は何を教えてくれるのだろうか？

第一に、国境の恒久的な閉鎖によって自分を守るのは不可能であることを、歴史は示している。

第二に、真の安全確保は、信頼のおける科学的情報の共有と、グローバルな団結によって達成されることを、歴史は語っている。

そして結論部分では：こうした感染症について人々が認識すべき最も重要な点は、どこであれ 1 国における感染症の拡大が、全人類を危険にさらすということだ。

1970 年代に人類が天然痘を打ち負かすことができたのは、すべての国のすべての人が天然痘の予防接種を受けたからだ。

今日、人類が深刻な危機に直面しているのは、新型コロナウイルスのせいばかりではなく、人間どうしの信頼の欠如のせいでもある。感染症を打ち負かすためには、人々は科学の専門家を信頼し、国民は公的機関を信頼し、各国は互いを信頼する必要がある。

信頼とグローバルな団結抜きでは、新型コロナウイルスの大流行は止められないし、将来、この種の大流行に繰り返し見舞われる可能性が高い。だが、あらゆる危機は好機でもある。目下の大流行が、グローバルな不和によってもたらされた深刻な危機に人類が気づく助けとなることを願いたい。

今回の危機の現段階では、決定的な戦いは人類そのものの中で起こる。もしこの感染症の大流行が人間の間での不和と不信を募らせるなら、それはこのウイルスにとって最大の勝利となるだろう。人間どうしが争えば、ウイルスは倍増する。対照的に、もしこの大流行からより緊密な国際協力が生じれば、それは新型コロナウイルスに対する勝利だけではなく、将来現れるあらゆる病原体に対しての勝利ともなることだろう。

全文はかなり長いですが深い洞察に基づく分析で分かりやすいと思います。ぜひ下記のURLからご覧になってみてください。（更にそこから英語の原文にもアクセスできます）

<http://web.kawade.co.jp/bungei/3455/>